研修充実で資質向上
現場対応力を磨く場

福井診断士会

石川会長

福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は、2004年に13名でスタートした。

その後、診断士資格保有者を中心に会員の増強を行い、診断士の社会的地位の向上と、コンクリート診断技術の普及に努めてきた。今では、正会員数は119名となり、全国でも最大規模の診断士会である。

福井診断士会では毎年、コンクリート診断士の資質向上を図るための研修会を行っている。今年も研修会を8回程度開く予定だ。内容は様々で、講義形式の研修会や橋梁点検研修会、現場見学会、セメント系補修・補強材料に関する技術講習会、技術交流会（会員によるコンクリート診断事例の発表）、コンクリート診断技術セミナーなどである。石川会長は「福井の特徴として、様々な診断事例を学び、実践的な内容だと自負している。特に劣化の生々しい写真を見せて、原因についてそれぞれが考える場を作ったり、その診断結果に対する意見をぶつけることもある。様々な視点で比較検証することで、お互いの技術力向上につなげている」と話す。現場対応力を磨く場として研修会の役割は大きいといえる。

また、地域貢献活動を推進している。具体的には地元自治体との連携や協働の模索、福井県道路メンテナンス会議との協調などだ。道路メンテナンス会議とは昨年度、道路橋定期点検要領に関する実地研修や、コンクリート橋の劣化に関する座学および非破壊検査の実地研修を行った。今年は、同会議との協調のもと、学生向けの現地学習会を行い、行政や大学との連携も強めていく。

このほかに、福井県農林水産部主催の研修会（林道橋メンテナンス研修）への協力・支援や、金沢大学SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）に参画してきた。

こうした活動が評価され、昨年度に国土交通省によって選定されたインフラを支える優れた実践事例（グッド・プラクティス）に、福井県の診断士会が任意団体として唯一選出された。

生コンに広がる
診断士育成の意義

石川会長は生コン業界ももっと積極的に診断士の資格取得を目指すべきだと主張する。会長が所属する福井宇部生コンクリート（福井市、南谷哲彦社長）は、県内に4工場を有し、従業員は約70名だ。そのうち、同社所属の診断士は6名、コンクリート主任技士は13名と資格保有者の育成に力を入れる。この点について石川会長は「生コン業の差別化は難しいが、当社は生コンを製造するだけでなく、その後の責任を負うのも大事だと考えている。そこで、維持管理でコンクリート全般を知ることは、生コン製造業としても有益だ」と話す。

今、傷んでいる構造物を知ることで、今後起こりうるひび割れ予測を行い、そのリスクに対応したコンクリートを提案するのが、生コン業におけるコンクリート診断士の役割という。